

野球の投能力向上と上肢投球障害予防に関する研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 医療科学科
スポーツサイエンスコース 教授

伊藤 博一 Ito Hirokazu

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 野球・動作分析



研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

身体の構造と機能から「上手な投げ方」を研究している。上手な投げ方とは、肩・肘関節を痛めずに速い球を投げることである。

それを身に付ける練習法の一つとして「真下投げ」という投法を長年に渡って研究している。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

身体の構造と機能から「上手な身体の使い方」を研究することは、野球の投球動作のみならず捕球動作や打撃動作、さらには他のスポーツのパフォーマンス向上にも応用可能である。

身体の構造と機能から「上手な身体の使い方」を研究することは、スポーツのパフォーマンス向上のみならず、ロコモティブシンドロームの予防にも応用可能であり、健康寿命の延伸につながることも期待できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「学童野球公式戦における投球数制限の至適範囲」
- ・「学童野球公式戦の登板間隔に関する一考察
～いわゆる中5日、中6日が投球フォームやボール特性に与える影響について～」
- ・「中3日での登板間隔が投球フォームや球速の乱れに与える影響
～学童野球公式戦における準優勝投手の場合～」